

館林城の守り神 尾曳神社

○1532年赤井照光が創建。

○館林城築城の際、城の守護神として建てたため、神社としては珍しい西向きの社殿

○祭神は、須佐之男命(災難除け・疫病退散の神)、倉稻魂命(五穀豊穰の神)、菅田別尊(別名八幡神=応神天皇。必勝祈願・学問・産業繁栄の神)、倭建命(教科書にも出てくるヒーロー)

これだけそろくと、ほぼ無敵の

守護神ですね。それゆえ、館林市教育委員会発行の「館林の伝説」には、その力を示す伝説が4つも書かれています。

第1話 片葉のヨシ

1590年、豊臣秀吉による北条氏の小田原城攻めの際、当時、北条氏の城となっていた館林城も攻撃を受けた。その総大将は石田三成。佐野口(館林記念病院の北)から石田軍7000、加法師口(東保育園の南)から大谷軍5000、伴木口(善長寺の西)から長束軍6000、計18000人による総攻撃を受けた館林城は、善戦するもじりじりと攻め込まれ落城間近となった。その時、どこらともなく現れた軍勢が攻城軍を次々と切り倒し、押し戻した。しかし、数に勝る攻城軍により、全滅させられた。たまたま夕方になったので、攻城軍は引き上げた。翌日、館林城の兵隊の死体がたくさんあるだろうと見てみると、1体もなく、ただ片方だけ葉がなくなったヨシが生えているだけだった。以後、この場所に生えるヨシは片葉となった。

第2話 消えた木道

「片葉のヨシ」に驚かされた石田軍は、作戦を変更して、今のつつじ町あたりから三日三晩かけて城沼に木の道を作って館林城に攻めこむことにした。翌日に総攻撃を予定していた夜、木の道あたりに無数の明かりが点滅していたが、誰も気にせず眠った。しかし、翌朝、木の道は跡形もなく消え、その代わり沼の水が増えていた。



第3話 尾曳のおとがめ

1644年、松平乗寿が新しい城主として館林にきた。そこで役人が尾曳神社に城主入城の奉告祭の話をした。これに対し、松平氏は「城主となったからには、領内の人はもちろん神仏もすべて支配する。尾曳稲荷といえども、私にあいさつに来るべきだ。」と言った。それから数日後、江戸から速達が届いた。そこには「(のちに4代将軍となる)徳川家綱様が疱瘡にかかって大変な状態なので急いで江戸城に来るように。」と書かれていた。そこで、急いで江戸城に行き、病氣見舞いをしたいと告げると、「家綱様は元気だ。不吉なことを言うでない。」と叱られてしまった。そこで、証拠として届いた手紙を見せると、文字はすべて消えていた。



「こま犬」ではなく「こまギツネ」



←折れてしまって痛々しいですが、田山花袋が子どものころ木登りしたツゲの木も残っています。

↓ 田山花袋の歌碑もあります

